

# マルセイニュース 7月号

発行日 2015/7/23

株式会社 マルセイ  
浦河町東町うしお1丁目  
〒057-0005 TEL 0146-22-5123



## 100周年の夏！今年の浦河は熱い！

浦河町制100周年



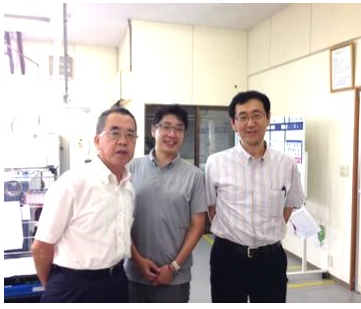
プロ野球日ハムの大谷選手と白村選手が浦河町の応援大使を務めるこの一年間。全国へ向けて浦河町をPRするには大きなチャンスですね。7月10日～12日、そのチャンスを活かして出店した札幌ドームでの「第6回なまらうまいっしょ！グランプリ」の人気投票で、『うらかわすずあかねのアイス』が優勝～！夏いちごの生産農家で作る、「浦河夏いちご普及促進協議会」(菅正輝会長)のみなさんが、「まちの人に愛されるいちごにしたい！」という想いを込めて製品化したアイスは連日売り切れでした。浦河港まつりで販売目標だったこのアイスが、売れすぎて足りない！当日まで間に合わないかも！と、予想をはるかに超えた大反響に、関係者の方々はうれしい悲鳴と共にてんてこ舞いのようです。

関係するたくさんの方々が知恵を出し合い協力して、製品化にこぎつけた浦河の新しい特産品のデビュー。ソウルフードとしての「かつめし」にも注目が集まっていますが、どうやらこの夏の浦河は、色々と熱いです♪



## 若さいっぱいの浦高祭！ 第68回浦高祭 7月11日(土)・12日(日)

好天に恵まれた今年の浦高祭。12日の一般公開会場にも父兄や卒業生など、大勢の人が足を運んで賑わっていました。若者たちの、はじける笑顔が眩しいですね。マルセイでは毎年、浦高祭が終わった後に出るごみの収集運搬の仕事をお手伝いをさせていただいています。浦高生たちの今年のごみの分別は、格別にバッチリ！係のみなさん、ご苦労さまでした！



左が群馬県から参加された有田さん。中央が有ファインの藤井社長です。

年に一度の勉強会で福井県鯖江市へ 6月16・17日

# 経営者仲間との『快労祭』

今年の快労祭では仲間の経営者二人が、自らの社長人生を振り返った「経営改革記」を披露。どちらもとても読み応えのある内容でした。鯖江市の若い経営者の方の会社訪問の機会にも恵まれました。一年に一度しか会わない仲間と集い、多くの学びを得た二日間でした。

数年前から工場環境整備に取り組んでいると聞いて訪問させていただきました。写真をごらんいただけたらお分かりになると思いますが、原材料はもちろん、備品に至るまで整理整頓と管理がじつに行き届いていました。本当に素晴らしかったです。



きれいに並んだそうじ用具。いつ使うかわからないような用具は、処分してしまうそうです。

## 環境整備の取り組みを見学させていただきました

鯖江市にある有有限会社ファイインさんを訪問しました。鯖江市は、国内のメガネフレーム生産で9割以上のシェアを持っています。良質で掛け心地のいいめがねを生産していることから、「めがねの町」として世界的に知られています。今回訪問させていただいたファイインさんは、メガネフレームの特殊印刷を得意としていて、世界で一つのだけのオリジナル・デザインにも応えてくれる会社です。

ファイインさんの環境整備をサポートしているのが、仲間である小早祥一郎さんです。小早さんは株式会社社そうじの力の社長で、小さな会社の支援で全国を飛び回っている方です。小早さんが、「社長が自ら環境整備を実践しない会社は、変わっていきません。」と話されたのを聞いて、まさにと思いました。社長のわたしがこんなのですから、マルセイの環境整備も進みます。「オレはいつまでたつても実践が足りないなあ」と思ったのですが、ダメな自分に居直らないで頑張ろうと思います。

社長

## マルセイの環境整備はまだまだこれから…

感心したのは、社員の皆さんに遊び心があつて楽しみながら掃除をしていることでした。お忙しいところをお邪魔するのに、とても感じの良い対応をしていただき感激しました。創業者である藤井高大（たかひろ）社長の人柄が会社の色々などところに表れているのだと思いました。藤井社長、ありがとうございます。



この絵が見えるということは、金切りばさみが使用中、もしくは定位位置に戻されていないということです。



## 社長！今年の夏も体を張って頑張りましょう～

## “片付け仕事”で暮らしも経営もサポート！

燃料店の夏の経営は厳しいので、売上げが減少する夏季はみんなで「クリーン事業」に取り組んでいます。困っている片づけ仕事などがありましたら、どうぞマルセイへご相談ご利用ください。私たち老若男女のスタッフ一同が、一生懸命に取り組みます！

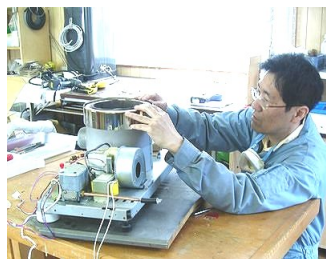
「よいつしよつ！」の掛け声を連発する50代の面々。若くて力のある気田くんがマルセイに加わり本当にうれしい。とにかく一生懸命で真面目！大いに活躍してくれています。気田くんを見かけたお客様からは、「あ、あのお兄ちゃんだね。頑張ってるねー。」と声をかけていただくことも少なくありません。人気者です！

## 夏バテしないように頑張ります！

夏を迎えて、草刈りその他の片付け仕事をお引き受けさせていただきます。健康がいちばん。体に気をつけて頑張りましょう！と話していた大澤さんが一月に亡くなってからは、本当に現実味のある言葉になりました。水分補給にも気を配りながら仕事をしないといけませんね。「ありがたいことだなあ」と仕事をいただけることに感謝しながら、みんなで取り組んでいます。



力持ちの気田くんです！



パーツをひとつずつ清掃したあとに組み立てている様子です。老眼になって、なかなかしんどい作業です。笑



注意信号は、着火しづらい、煙が出る、臭いがある、変な音があるなど

ストーブの分解整備、必要ありませんか？

## サインを見逃さずに整備しましょう！

この冬、「燃えが悪い」と感じながら使用していたストーブならば、次の冬が来る前に分解整備することをおすすめします。燃費もアップして灯油代の節約につながります！

お宅のストーブには、思い当たる症状はありませんか？3年～4年に一度の分解整備をお勧めしますが、「燃えが悪い」と感じたら、それは分解整備が必要なサインです。長期間使用しているストーブの内部は、どのご家庭のストーブでもホコリがいっぱい！ご紹介の写真は、その中のほんの一例です。

- モーター異音・回転不良
- ファンベアリング不良
- 燃料パイプのつまり
- 着火不良
- 燃焼不良・白煙・黄色い炎
- 消火不良・臭いの発生
- すすの発生
- ガラスのくもり・ヒビ
- 火力調整不良
- 床暖房の不良
- 不凍液の汚れ・にじみ・漏れ

ストーブのトラブル・故障・不良・異常は次のように色々あります。

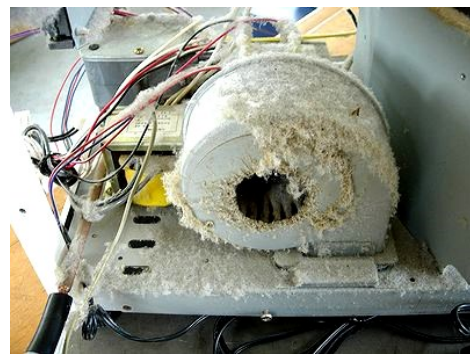


どのストーブも内部のホコリはこんな状態です。3～4年に一度の分解整備できれいにしましょう。



ファンにこびりついたホコリの一例です。これでは燃焼に必要な空気が足りませんでしたね。燃えが悪かったと思われる。

ペットのいるご家庭は、特に注意が必要です。ペットの毛が絡みついたり、ホコリと一緒にかたまってしまうと送風ファンが窒息状態。これでは燃焼に必要な風を送ることも無理な状態ですね。分解整備でホコリを取り除いてスムーズな送風を取り戻し、燃焼を助けましょう。「燃えが悪い」という症状を改善できます。異音や異臭がしているストーブを使用されている場合は、もちろん分解整備をおすすめします。



内部のホコリは外側から掃除機をかけても取れません。

## “トラブル・故障・不良・異常”のない安心な冬のために 分解整備で燃費をアップさせましょう！

整備後は安心の  
**1年間保証！**

- 1年以内の故障は修理代・出張料無料で再整備いたします。

整備時に未交換の部品が不良となった場合には、原則、部品代のみ承ります。

- ストーブ設置時に灯油ホースも交換します。(1mまではサービスとさせていただきます。)



FF式ふく射型

小型	21,600円
標準	22,680円～25,920円



壁置煙突型

標準	18,360円～21,600円
床暖	29,160円～

※整備価格には「部品代」は含まれておりません。  
交換した部品の代金は、別途加算されます。  
(尚、表示されている価格は全て消費税込の金額です。)

\*「温風タイプ」その他、各種ストーブについてお問い合わせください。

★分解整備ご予約受付中！詳しくはお気軽にご相談下さい！ TEL22-5123

# 『とことこカフェ』がオープンしています！

町内に、またひとつ新しい「場」が誕生しました。高齢者の方などが孤立することなく、気軽に足を運んでお茶を飲みながらお話のできる場所があったらいいなと設けられた『とことこカフェ』です。



6月にショッピングセンターMiの店内に誕生。飲み物の料金は100円と格安です。とことこ出かけて行く人と一緒に

にお茶を飲みながらゆったりとした時間を過ごして欲しい。人と人が繋がれて、ゆつくり楽しむことができるような場を設けたい。長いことそんな想いを抱いてきた森允子さん。それを知って共感した地域おこし協力隊の五十嵐早矢加さんの二人を主体に、ボランティアスタッフの協力を得てスタートしたばかりの『とことこカフェ』です。

実現には、浦河にUターンしてレストラン『さつちゃんハウス』をオープンした、内海幸子さんの応援もあつてのこと！さつちゃんハウスの定休日である火曜日に、店舗使用の協力を得て、とことこカフェはスタートしました。現在、『とことこ



こカフェ』は、毎月第2と第4火曜日にオープンしています。どうぞ気軽ににお出かけ下さい。

集まりの「場」には、「楽しさ」だけではなく「安心」があるといいな...と思います。そんな「場づくりについて」旧知の尊敬する方が次のように述べられています。共感し、とても大切なことだと思えたのでご紹介させていただきます。

## 「場づくりについて」

わたしは介護施設に通っていて、介護施設で働く人々には「場づくり」という考え方があまりないように思われるのです。新潟市で河田瑠子さんが開いている「地域の茶の間」は、「場づくり」の良いお手本なのですが、意外と介護施設の方々が学びに来られることは少ないようです。

私は、そんなに難しく考えることはなく、その場に居る人の中に、不安を感じたり、孤立する人が出たりしないように気配り目配りする人が一人でも居れば、「安心の場づくり」ができるように思うのです。

逆に、そのような気配り目配りする人が一人も居ない場では、不安を感じて落ち着きのない人が増えて、「不安の場」になってしまうと思うのです。ですから、「場づくり」には、弱い人への気配りのできる人が一人居れば必要条件を満たすことになると思うのです。

新潟市在住 ファシリテーター 清水義晴

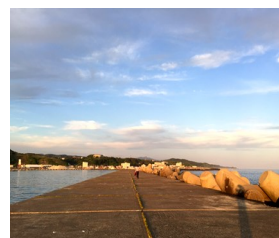
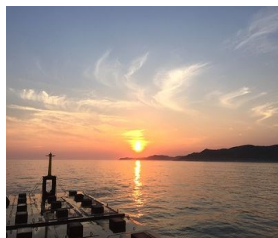
最近ゆつくりと、渡辺和子さんの『目にはみえないけれど大切なもの』という本を読んでいます。本を開いてすぐ、心に響く言葉に出会えました。渡辺さんが、思いがけない病気をいただいたと、病と共に生きた七年間の日々を振り返りながら書かれた「まえがき」の部分から、少し紹介させていただきます。

その時は本当に辛かったのですが、この痛み、辛さを通して、人の温かき、親切を身に沁みてありがたいと思ひ、私自身も、以前より少し優しくなれたように思えます。病気をしなければ味わうことができなかった「癒し」の恵みもいただきました。

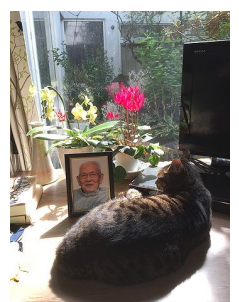
さらには、この七年間が私に与えてくれたものと言え、どんな姿の自分も嫌うことなく、その自分と仲良く生きる勇気でした。

他人の助けなしではいられなくなったじぶんを受け入れる勇気、自分を惨め(みじめ)に思わない勇気、そして、老いに伴うさまざま悲しさを一つひとつ「我が物」として認める勇気があったと書かれています。若かった頃とは違い、痛みや弱さが自分に身近なこととして心に響いてきます。

若い時に考えていた「勇気」は、何かに敢然として立ち向かい、征服する勇気だったように思えます。それが変わったのです。受け入れたいものを受け入れる勇気というものが、それが人間の成長にとって大切なのだと言うことを習いました。



## 自分と仲良く生きる勇気と出会う



父を亡くしてから一年と少しの月日が過ぎました。逝っちゃったなあ。そうか、もう本当にいないのか...と切なく思う時があります。

この本で「小さな死」という言葉に出会い、何も言わなかったけれど、父は自分に訪れていた「小さな死」をひとつずつ受け止め、受け入れながら静かに逝ったのかな...と思ったりしています。

いつも生き生きと生きてゆきたい。そのためには、どんな自分も受け入れる勇気を持つことが必要です。そんなことを痛切に学んだ七年間でもありました。

どんな自分も受け入れる勇気を持つこと。それを学べるのは、痛みや弱さを知ることを通じてしかできないのだと感じていたりもしているこの頃です。

マックス





**地域デザインカフェ vol. 31**

あなたのローカルヒーローを  
教えてください!

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
7月9日(木) 総合文化会館 19:00~21:00 参加費500円

毎月1回の開催を続けて今回で31回目となりました。いわゆる転勤族の方や移住者、そして町内出身者との出会いや交流の場としても大切にしたい「場」です。

今回のデザインカフェは、「あなたのローカルヒーローを教えてください!」と銘打ち、参加者全員でわいわいと話す場にしました。

ある人はヒーローってなんだろう?と考えた時、その人がいれば大丈夫と安心できる人だと思っただと、何人かの自分の思うローカルヒーローを紹介してくれました。

まず最初は浦河在住のデザイナー小野寺千穂さんに口火を切っていただきました。移住者でもある小野寺さんは浦河に移り住む決めてが、多くの魅力ある人だったといいます。地域おこし協力隊などもそうですが、染工場や飲食店の方、魚屋さんやパン屋さんなど、それぞれの生業への取り組み方がとても素敵だとい

## ヒーローってなんだろう?

テーマの「ローカルヒーロー」はちょうど同時期に大黒座で上映されていた『スーパーローカルヒーロー』にあやかっつけました。同作品は広島県尾道市の一風変わったCDショップのおじさん「ノブエさん」を取り上げたドキュメンタリー映画です。社会で脚光を浴びるとか、なにかで表彰されるわけでもない普通に暮らすおじさんですが、ひっそり地道にアーティストや町の人を支えていて、多くの人に愛されているそんなローカルヒーローです。今回は参加者が思い浮かべる「ローカルヒーロー」を共有する場にしました。

今回はメールマガジンをご覧いただいた方や、職場の後輩を連れて参加してくださった方もいらっしやいましたが、新しい出会いを楽しんでいただけであったようでした。地域デザインカフェは、毎月一回、来月以降も開催いたしますので、お気軽にご参加ください!

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
村下知宏



今回の参加者は18名。久々のワークショップ形式でしたが、常連も初めての方もとてもリラックスした雰囲気でした。次回は、8月10日(月) 19時~。「先人たちの百年」というタイトルで、お料理「松山」さんを会場にして開催します。

## ■ 仕事の他にも楽しい時間! 「マルセイ釣りクラブ」誕生か!

当社の若者ふたり。とにかく楽しくそうに仕事をしてくれています。最近では趣味の釣りを一緒に楽しんでいる、休日にも二人で川や海へと出かけています。

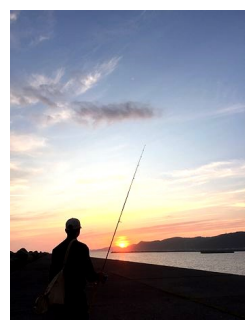
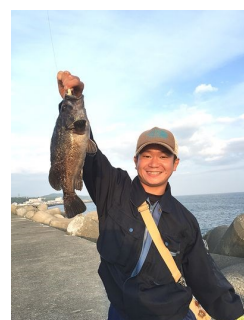
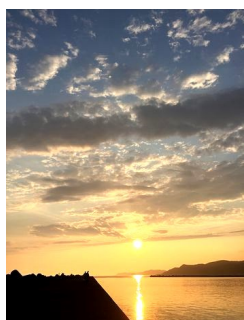
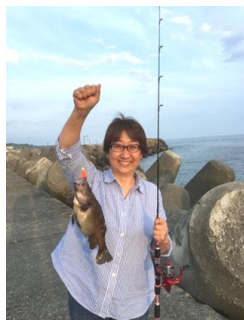
夕方4時に仕事が終わるとなる早出の日は、浦河港に立ち寄って釣りをして帰る気田くん。気持ちよさそうなのとダイエツトのためのウォーキングも兼ねて、ある日、私も!

足を運んでみると気田くんがいたのは、通称「赤防」と呼ばれている長い防波堤の最先端でした。歩くとけっこうな距離ですが、このところそこまで行くのが楽しいです。

「短い釣り竿があります。釣ってみますか?」と、気田くんに差し出されて初めて釣ったのが大物のガヤでした!

以来、今まで知らなかった新しい楽しみを覚ええました。仕事帰りに、夕暮れの美しい自然の中に身を置いて、のんびりと釣り糸を垂れながら静かな時間を楽しんでいるこの頃。自分が解放される遊びの時間を持つのはいいですね。

マックス





最近読んだ本の中より…

# ベトナム帰還兵が語る「ほんとうの戦争」 『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？』 アレン・ネルソン (1847~2009) 著 講談社文庫

この本は150ページほどの小さな本です。ですが、戦争について、あるいは戦場について多くのことを教えてくれる本です。「本当の戦争は、無慈悲で残酷でおろかで、無意味です。」とネルソン氏は言います。今回はわたしの感想を交えずに、強く心に残ったところを本書からご紹介したいと思います。

ネルソン氏はベトナムの最前線で戦った、元海兵隊員です。最強の兵士の一人でした。村を焼き払い女も子供も老人も容赦なく殺しました。「動くものすべてを殺した」と記しています。そして殺した女や子どもを、森に隠れている男たちによく見えるようにさらしました。彼らはグークス(アジア人の蔑称)なんだ、俺たちより劣等な者たちなんだと徹底して教えられ戦場に来るので、このようなことが出来るのです。

海兵隊の基地がある沖繩では、住民をジャップと呼んでいましたが、蔑んだ意味ではグークスと同じだといいます。タクシー代を踏み倒すのはしつこくちゅうで、しつこく支払を求め運転手をニヤニヤしながら引つ張り出し、気絶するまで殴ることもしばしばでした。女性でも容赦なく殴ったそうです。ネルソン氏はこう記しています。

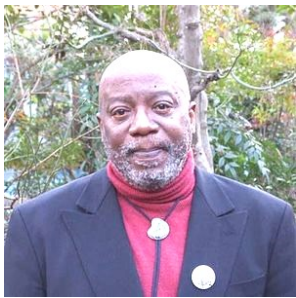
「アメリカは、米兵による沖繩の人々への犯罪に、充分に暴力的な兵士のしるしを見て大いに満足していたはずですよ。」

危険な任務には自ら志願し、そこに興奮すら感じていたネルソン氏の心が変化し始めるきっかけとなる出来事が起きます。それは捕虜にしたベトナム人兵士の言葉でした。

小隊はこの捕虜を拷問しますが決して口を割りませんでしたが足の骨を叩き折ったあと、面倒だから殺してしまおうと相談していたとき、捕虜が明瞭な英語でこう言ったのです。

「なぜ、あなたたちは私の国にいて、私たちを殺しているのですか？ 私たちは自由のために戦っています。あなたたち黒人も自分の国では自由ではないではありませんか？」

小隊は、全員が黒人でした。それでも彼らはいささかも動じずに捕虜を撃ち殺し、死体を井戸に投げ込んで帰路につきました。しかし捕虜の発した言葉は、ネルソン氏の脳裏から決して離れませんでした。その後、年若いベトナム女性の出産を戦場の村で目撃したこともあり、しだいに人を殺すことに抵抗を感じるようになっていきます。そして忘れられない出来事が起きます。それが戦場で人を殺した最後となりました。その場面を引用します。



枯葉剤の影響からか…。白血病で62歳で亡くなったネルソン氏です。

自分が殺したベトコンは、各自その死体を調べることになっていました。私は彼の持ち物を調べました。ポケットに一枚の写真が入っていて、一人の男性と二人の女性が微笑んでいました。

死んだ若者の父親と母親、それと姉妹と思われました。私は指がふるえ、突然涙があふれ出てきました。この父親と母親は、愛する息子がたつた今、撃たれて死んだことを知らないのだ、と。ベトナムに来てはじめて流した涙でした。わたしは19才になったばかりでした。

除隊したネルソン氏はニューヨークに戻りますが、家族と暮らすことができずホームレスとなります。23才でした。偶然に街で出会った同級生に何度も何度も頼まれ、しぶしぶ子供たちにベトナムでの体験を話すことになりました。彼女は小学校の先生でした。この出来事が、ネルソン氏の人生を変えることになりました。

その日、ネルソン氏は子供たちに語りました。いかに戦場が悲惨なところか。仲間が死ぬことがどんなにつらいか。一般人も大勢死んでいることなどを、子供たちを刺激しすぎないように気をつけて話しました。子供たちから質問が出ましたが、

最後に、利発そうな小柄な女の子が「ついにこうたずねたのです。『ミスター・ネルソン。あなたは、人を殺しましたか？』」

長い長い沈黙の後、ネルソン氏はイエスと答えます。ここに来なければよかったと思いましたが、自分と呼んだ同級生を恨みました。そのとき、誰かの手が自分に触れているのを感じました。ネルソン氏は、こう書いています。

目を開くと、わたしの腰に小さな手を回して抱きしめようとしている、質問した女の子の姿がありました。女の子の頭はわたしのお腹の辺りにあり、わたしを見上げていました。女の子の瞳には涙がいっぱい溜まっていました。「かわいいそうなミスター・ネルソン」女の子がそう言いました。子供たちが次々と寄ってきて、わたしを抱きしめました。わたしの中で、この時、何かが溶けたのです。



「こまでのわたしのつたない抜き書きでも、この本のすばらしさが伝わればと願っています。そして、アレン・ネルソンさんが生前残した数冊の本のどれかを手にとっていただけたなら、とてもうれしいです。」

社長



彩り良く、夏野菜もたっぷり添えてどうぞ。

## ガスを使っておいしくクッキング たっぷりネギダレの☆さっぱり冷しゃぶ

社長の登場なので、うーんと簡単でおいしいレシピを探しました。お父さんたちも挑戦してみてくださいね。少し酸味の利いたおいしいネギダレをたっぷりかけると、食欲増進！夏バテしないようにしっかり食事しましょう♪



### ●材料(2人分)

豚バラ(しゃぶしゃぶ用) 200~300g  
添え野菜 色々適量

お好みで微調整OK!

★  
ねぎ 1本  
しょうが 1片  
砂糖 小さじ2  
レモン汁 大さじ1  
酢 大さじ1  
ごま油 大さじ1  
しょうゆ 大さじ2  
ごま 小さじ1



### ●作り方 (参考 楽天レシピ 935revさんのレシピ)



1、ねぎとしょうがはみじん切りに。  
★の調味料は、全部合わせておきます。

2、お湯を沸かし、肉はさっと湯通しをして氷水にとり、水を切っておきます。

3、皿にお好みの添え野菜と湯通ししたお肉を盛り付けて、1のたれをかけてでき上がり！  
(うどんにのせてもおいしかったです)



「かなり長い時間格闘してたね。でも、みじん切りになってないね」とみんなで爆笑しました。



「ともじ(村下社長の愛称)、生姜の皮を剥いてくれ」「恭平、タレを合わせてくれ」と、次々と若者たちに助けを求める社長。「ジャキジャキって、いい音するぞ。ほら、ネギのみじん切りできた！」と満足気な社長。でも、「それってみじん切りとは言いませんから」とばわふるがバツサリ！

食材を買いに出かけたばわふるさん。きっとお腹がすいていたのでしょう。「キョウちゃんが食べたいかな〜って思って」と買って来たのが、うどんのほかのり巻き3種、パン2種、そしてメンチカツも！いや、びっくりした〜。笑ともあれ、気温が高い夏のお昼にはぴったりだったこの日のランチメニューをみんなで楽しくいただきました。

簡単でおいしいさっぱりタレのこの冷しゃぶ。オリーブオイルで炒めて添えたズッキーニもおいしかったですよ。夏野菜もおいしい季節です。お肉と一緒にどうぞ^^

## ♡社長がまさかのオール★3つ!

試食した人	今日の料理は★いくつ?(最高得点 ★3個)
(株)ユートライン 村下社長 (3.0)	★★★ 夏メニューですね。いいですねー
キョウちゃん (3.0)	★★★ ボリュームもあっておいしかったです。
マックス (3.0)	★★★ 温野菜を添えてもおいしいんだね^^
ばわふる (3.0)	★★★ みんなで協力したし、美味しかったしね!
(株)マルセイ 小山社長 (3.0)	★★★ リベンジしました!この肉うどんもうまいな。 いやー、このメニューよかったなあー



「うどんにのせてもおいしいね」と、大皿に盛りつけたうどん3食分もペロリ。若者にもおすすめできる「肉うどん」です。夏休みにいいかも^^





### 社長のちょっと長いコラム

## 「関西空港で思ったこと」

2ページに書いたとおり、珍しく出張で関西に行つてきました。福井県へ行くには小松空港から近いのですが、一日一便しかないのと、チケットがとても高いので、格安航空券のある関西空港を利用することにしました。(後日、伊丹空港の方が便利だと教えられたのですが、ふだん旅行をしないので知りませんでした。)

関空でJRの切符を買おうとしていたわたしが気付いて驚いたこと。周りに日本人がいないんです！自動券売機の操作が苦手なので、誰か親切そうな人に訊こうと思つて見渡したときに、そのことに気づきました。目が合つたら、外国人にたずねられました。慌ててすぐ横の券売所に飛び込み、列に並びました。すると女性職員の方が、中国語や英語で流ちょうに外国人の質問に答えているではありませんか。列に並んでいる人たちを見ると、あきらかに日本人はわたしだけ。「あつ、これ外国人専用なんだ。」と思い、静かに列を離れて外側から券売所を眺めてみると、ちゃんと日本語で書いてあります。そうです。単純に、ここに外国人がたくさんいるというだけのことだったのですが、仕方なく、馴れない自動券売機で京都市の急行券を買いました。



JRのプラットフォームも同様に外国人ばかりでした。欧米人もアジア人もたくさんいます。

二、三人の小グループと一人旅の人が多いようでした。国籍も人種もちがう人たちが、自分たちの乗る列車を確認しあっているのが、田舎から出てきたわたしには新鮮でした。

大きなスーツケースを携えた黒人の女性が自分の乗る列車が分からなくて、切符をかざして「オーサカ！」と言つたのですが、誰かが指さして「こっちだ！」と教えてくれました。「サンキュー、ベリマッチ！」(本当にこう言つたんですよ)と言つて発車寸前の列車に乗り込んでいきました。

京都までの車中は、当然ながらプラットフォームにいた外国人の人たちと一緒に。ちよつと離れた席のグループが、スペイン語らしき言葉で会話をしているのですが、その声が少しばかり大きいのです。たまに笑い声もします。でも、このときわたしはイヤな気分にならなかつたのです。旅を楽しんでるんだなあ、ちよつと幸せな気持ちさえしました。わたしも普段の仕事から離れていて、気持ちに余裕があつたのでしょうか。

京都駅におりたら、外国の方たちがさらにたくさんいたのですが、さすがに京都で外国人をみても驚きません。晩ご飯を食べにトンカツ屋さんに入ったのですが、目の前のテーブルがドイツ人らしき団体で、となりが台湾の人らしき親娘連れでした。ドイツの大きなおじさんは、トンカツに美味ーい！とドイツ語(知らないけど)で感激してましたし、となりの台湾人(たぶん)母娘はわたしのソースのかけ方や辛子を塗るのを観察していましたよ。お上りさんのわたしはちよつとだけ京都旅行気分を味わえて、愉快なできごとでした。

## さのぱわふる日記



当社の忘れ物王、いまだ健在！大丈夫ですか？



ある日、お客様からお電話で、「お宅の会社の方で誰か靴を忘れていませんか？」とご連絡をいただきました。このお客様からのご依頼に対応させていた

ただいたのは、「仲良し夫婦部隊」。

そう、社長とマックスさんのお二人です。仕事が終了したので、ご依頼主の方に点検をお願いしていました。空家なので後日、点検に行つて玄関を開け大きな靴があるのに驚かれたようです。

社長に「靴を忘れてない？」と聞くと、「えっ」というような顔ををし、玄関を眺め、まるで何か閃いたような顔をして大きく頷く社長。

「俺、何を履いて帰つて来たんだ？」と玄関にあるスリッパに目をやり、「おっ！風呂場に入るのにスリッパを持って行つてたんだよ」と照れ笑い。

玄関から入り裏口から出てきたと言いつつ、私に「今日は道具も一本しか使つていないから忘れる物はないぞ」と自信満々の口調。

「でも、忘れてるよと言われたから、その一本の道具が工具箱にあるかどうか確認してね」と私に言われ、洪々チェックに行つた社長。

この結果については言うまでもなく、皆様のご想像の通りですよ。

お客様、当社社長がお伺いした際には、どうぞ後ろからついて忘れ物をしていないかのご確認にご協力下さいませ。宜しくお願ひ致します。

お電話で、「お宅の会社の方で誰か靴を忘れていませんか？」とご連絡をいただきました。このお客様からのご依頼に対応させていた

### 発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~10月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~5:30土曜3:00



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789